

財政再生計画(3次集計)の歳入・歳出年次総合計画概要 (平成22年1月)

財政再生計画の期間は平成45年度までの24年間で検討

(実質赤字322億について「再生振替特例債」を借り入れ→24年償還・4年据置)

- 11月の2次集計後、歳入は+16億(交付税見直しなど)、歳出は▲24億(人件費及び事務事業見直し)
- 平成36年度までの収支見通しでは、財政再建計画と比べ、137億円の赤字解消不足が発生。
- 市としては、計画期間の短縮に向けて、引き続き国及び道の支援を要請。

1. 年度別収支推計の状況(単年度収支ベース)

<10年目>

<15年目> (単位:百万円)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H22-36累計
歳入推計	10,451	9,532	8,718	9,603	8,622	8,337	8,000	7,210	7,048	7,025	7,018	6,922	6,619	6,522	6,414	6,316	113,908
歳出推計	10,451	8,811	7,900	8,854	7,831	7,484	7,112	6,436	5,434	5,317	5,430	5,196	5,265	4,864	4,782	4,654	95,369
実質収支(A)		721	818	749	791	853	888	774	1,615	1,708	1,588	1,726	1,354	1,659	1,633	1,662	18,539

財政再建計画の赤字解消額322億円と比べ、137億円の解消不足

2. 再生振替特例債借入後の収支推計

歳入・歳出推計	42,650	10,066	9,250	10,134	9,153	9,427	9,054	8,378	7,508	7,461	7,431	7,311	7,208	6,862	6,728	6,603	122,575
特例債償還		614	612	612	612	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	23,819
うち元金		(4年据置)				1,337	1,363	1,389	1,415	1,442	1,470	1,498	1,527	1,556	1,585	1,616	16,197
うち利子		614	612	612	612	605	580	554	527	500	473	445	416	387	357	327	7,622
(利子市負担)		81	80	80	80	80	76	72	68	64	60	56	52	48	44	40	979
赤字残額	32,199	32,199	32,199	32,199	32,199	30,862	29,499	28,110	26,695	25,253	23,783	22,285	20,758	19,203	17,617	16,002	
減債基金残高		641	1,378	2,047	2,757	2,193	1,643	957	1,089	1,290	1,349	1,521	1,297	1,352	1,356	1,362	

1. 年度別収支推計の状況(単年度収支ベース)

<20年目>

<24年目>

	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
歳入推計	5,884	5,803	5,723	5,645	5,568	5,493	5,419	5,346	5,275
歳出推計	4,251	4,206	4,012	3,963	3,796	3,710	3,709	3,763	3,581
実質収支(A)	1,633	1,597	1,711	1,682	1,772	1,782	1,710	1,584	1,694

- 各年度の再生振替特例債償還額19億円を確保するため、単年度収支黒字額を減債基金に積み立てて、償還を行う。
- 15年間の単年度収支黒字は186億だが、特例債利子市負担10億と減債基金残高14億を減じた162億がH36末の特例債償還額となる。

2. 再生振替特例債借入後の収支推計

歳入・歳出推計	6,194	6,149	5,954	5,906	5,739	5,653	5,652	5,705	5,524
特例債償還	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943	1,943
うち元金	1,646	1,678	1,710	1,743	1,776	1,810	1,844	1,879	1,915
うち利子	296	265	233	200	167	133	98	63	27
(利子市負担)	36	32	28	24	19	15	11	7	3
赤字残額	14,355	12,677	10,967	9,225	7,449	5,639	3,795	1,915	
減債基金残高	1,313	1,200	1,174	1,090	1,067	1,025	879	576	351

計数については、今後の検討状況に応じ額の変更があり得る。

【参考】検討経緯(15年間の歳入歳出単純比較) (単位:百万円)

	歳入	歳出	実質収支	解消不足	(懸案事項)
財政再建計画	96,965	64,725	32,240		
1次集計(8月)	110,392	93,201	17,191	15,049	17,011
2次集計(11月)	112,270	97,758	14,512	17,728	20,390
3次集計	113,908	95,369	18,539	13,701	17,923
2次集計との差	1,638	▲2,389	4,027		▲2,467
再建計画との差	16,943	30,644	▲13,701		

(懸案事項)欄は懸案事項に係る歳出額

1次集計(57項目)→2次集計(87項目)→3次集計(83項目)

3.健全化判断比率の状況

	H20決算	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
実質赤字比率	703.60%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
連結実質赤字比率	705.67%	0.52%	0.39%	0.29%	0.18%	0.07%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
実質公債費比率	42.1%	36.9%	41.5%	42.9%	47.0%	45.2%	57.0%	69.6%	83.7%	80.9%	78.4%	74.1%	73.8%	74.9%	75.6%	76.1%
(特例債除き)	42.1%	36.9%	36.5%	32.6%	31.3%	28.9%	27.8%	27.3%	27.1%	22.8%	19.1%	14.7%	14.1%	13.4%	12.3%	10.9%
将来負担比率	1164.0%	1094.2%	1044.8%	1066.4%	1041.8%	1009.5%	1010.7%	966.7%	978.1%	912.8%	857.5%	805.0%	746.0%	747.7%	692.9%	636.9%

数値精査中

	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
実質赤字比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
連結実質赤字比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
実質公債費比率	75.0%	74.1%	73.8%	73.6%	73.1%	72.5%	71.6%	71.3%	71.6%	72.5%
(特例債除き)	9.4%	8.3%	7.8%	7.2%	6.6%	5.9%	5.0%	4.4%	4.0%	4.0%
将来負担比率	577.9%	519.3%	459.8%	401.3%	338.4%	276.0%	213.5%	154.2%	95.1%	34.2%

財政再生基準	早期健全化基準
20%	15%
40%-30%	20%
35%	25%
-	350%

【参考】平成22年度から36年度(15年間)の主な経費別収支比較 (単位:億円)

	財政再建計画	財政再生2次集計	再建計画増減額	財政再生3次集計	再建計画増減額	再建計画との主な増減内容
歳入	969	1,123	154	1,139	170	
税収入	228	126	▲ 102	126	▲ 102	税減少▲26 ダム交付金▲76
地方交付税	448	587	139	604	156	普交96(うちダム交付金影響57)特交60
使用料手数料	107	96	▲ 11	94	▲ 13	住宅使用料減
国・道支出金	106	181	75	183	77	新規事業及び扶助費の増加による増
地方債	18	74	56	73	55	新規事業に係る増
歳出	647	978	331	954	307	
人件費	93	146	53	140	47	職員数見直し、給与改善による増など
物件費	63	86	23	86	23	電算システムやし尿委託料の増など
維持補修費	36	64	28	57	21	住宅やし尿、道路に係る維持費増など
扶助費	131	177	46	179	48	保育所、生活保護、障害福祉扶助の増など
補助費等	50	52	2	55	5	市立診療所に対する負担など
建設事業費	39	146	107	137	98	住宅再編、診療所、し尿処理場など事業増
公債費	152	181	29	180	28	新規事業の実施に伴う増
繰出金	84	124	40	117	33	後期高齢者医療など各会計繰出しの増
予備費	0	2	2	2	2	新規計上
収支(赤字解消額)	322	145	▲ 177	185	▲ 137	

○ 実質赤字比率→再生振替特例債借入れにより0となる。
○ 連結実質赤字比率→国保会計の赤字がH25まで発生。その後は0となる。
○ 実質公債費比率→再生振替特例債借入れのため、ピーク時に83.7%となる。
最終年度では3ヵ年平均数値のため72.5%となるが、特例債償還が完了し、実質4%となることから、当該年度での計画完了を国に要請。
特例債除きでは、
H23:32.6%(再生判断基準35%以下)
H29:22.8%(早期健全化基準25%以下)

ダム交付金とは、シューバロダムの完成により交付される「国有資産等所在市町村交付金」。
再建計画では総額87億円と見込んでいたが、現段階の情報で再精査し11億円としたもの。
なお、減収額76億円の75%相当額が普通交付税の算定において補てんされる。